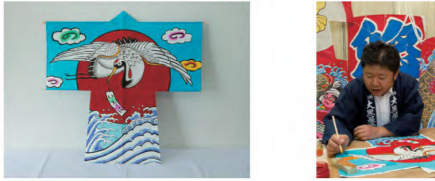


**郷土玩具 Folk Toys** 指定番号 169 (平成22年度指定)

かくだこ そでだこ  
**角凧・袖凧** KAKUDAKO・SODEDAKO  
かなや せいじ  
金谷 政司 (市原市)



角凧・袖凧は、上総地方で、男児が誕生するとその子の健康と出世を願い、端午の節句に凧を贈る風習があるなど、各種慶事に用いられてきました。  
金谷さんは、明治38年の創業以来、四代にわたって凧作りを続けており、平成16年に県指定を受けた父の司仁さんから家伝の伝統技法を習得しました。

連絡先：0436 (61) 0131

**郷土玩具 Folk Toys** 指定番号 149 (平成14年度指定)

かす さかくだこ  
**上総角凧** KAZUSA-KAKUDAKO  
おざわ のぼる  
小澤 登 (市原市)



上総角凧は、上総地域において、江戸時代中期から各種慶事のお祝いに用いられ、特に男子の出生のお祝いでは、元氣な子に育つようにとの願いが込められました。  
小澤さんは、昭和61年に県指定を受けた義父の高澤文雄さんから伝統的な技法を受け継ぐ四代目であり、その伝承と発展に意欲的に取り組んでいます。

連絡先：0436 (22) 4903

**郷土玩具 Folk Toys** 指定番号 88 (昭和63年度指定)

しば はらにんぎょう  
**芝原人形** SHIBAHARA-NINGYŌ  
ちば そうじ  
千葉 惣次 (長南町)



芝原人形は、浅草の今戸人形を元に、明治初期から長南町芝原で作られ続けてきた郷土玩具であり、粘土板を抜型に入れ、乾燥、素焼きし、糊粉をかけ、泥絵具で彩色した素朴な味わいのある人形です。  
千葉さんは、陶芸を学んだ後、一時途絶えていた芝原人形を復元、四代目を継承しています。

連絡先：0475 (46) 0850

**神祇器 Religious/ Festive Ornaments** 指定番号 47 (昭和60年度指定)

ぎょうとく み こし  
**行徳神輿** GYŌTOKU-MIKOSHI  
なかだい みのる  
中基 實 (市川市)




行徳の神輿作りは、江戸時代から続き「関東型」と呼ばれ、屋根が大きく張出し、堂が細くメリハリのある形が特徴です。  
中基さんは、主に木地師として古くから行徳地方に伝わる行徳大唐破風神輿をはじめ、各種の神輿を製造しています。また、文化・文政時代の神輿の復元、修理等にも力を入れています。

連絡先：047 (357) 2061

**神祇器 Religious/ Festive Ornaments** 指定番号 183 (平成29年度指定)

ぎょうとく み こし  
**行徳神輿** GYŌTOKU-MIKOSHI  
なかだい ひろし  
中基 洋 (市川市)




行徳神輿は、「関東型」と呼ばれ、屋根が大きく張出し、堂が細くメリハリのある形が特徴です。中基さんの製作所は、全工程を自社で一貫して製作できる数少ない製作所です。中基さんは神輿ミュージアムの公開によって神輿の魅力と伝統技術を国内外に伝えるための新たな取り組みも積極的に行っています。

連絡先：047 (357) 2061

**神祇器 Religious/ Festive Ornaments** 指定番号 63 (昭和61年度指定)

かす さ し し がいら  
**上総獅子頭** KAZUSA-SHISHIGASHIRA  
はせ がわ てるあき  
長谷川 照昭 (山武市)



獅子頭は、桐を素材として漆を塗って作りますが、九十九里地方に広く伝わる「上総獅子頭」は、下歯が上歯の内側に入る点に特徴があります。  
長谷川さんは、大正時代に絶えてしまった上総獅子頭を、自らの研究と工夫により復活させ、その製作に励んでいます。

連絡先：0475 (58) 1428

**和楽器 Japanese Musical Instruments** 指定番号 161 (平成19年度指定)

きばち  
**木撥** KIBACHI  
つづき しげゆき  
都築 茂幸 (流山市)



木撥には、地元の流山の白檜が光沢もよく、撥材料として最も適していることから、先代よりこの地で製作しています。  
都築さんは、四代目であった父の操さんの下で修業し、江戸時代創業の邦楽器製造の老舗「撥幸」の後継者となり、弟とともに木撥作りを伝えています。

連絡先：04 (7158) 2352

**和楽器 Japanese Musical Instruments** 指定番号 113 (平成6年度指定)

さわらだいこ  
**佐原太鼓** SAWARA-DAIKO  
まつもと みちお  
松本 通男 (香取市)



太鼓には、原材料である樺を原木のまま仕入れ、胴づくり、皮の加工、張り上げまでの工程があり、その大部分を手作業で行っています。  
松本さんは、昭和47年より父の下で太鼓製作技術を習得し、四代目として製作に励んでいます。製作された太鼓は、地元の「佐原囃子」の演奏や関東各地のお祭り等で使用されています。

連絡先：0478 (52) 2787 **見学のみの可能**

**和楽器 Japanese Musical Instruments** 指定番号 142 (平成11年度指定)

さわらだいこ  
**佐原太鼓** SAWARA-DAIKO  
あずま しんじ  
東 新治 (香取市)



太鼓には、原材料である樺を原木のまま仕入れ、胴づくり、皮の加工、張り上げまでの工程があり、その大部分を手作業で行っています。  
東さんは、平成6年に県指定を受けた父の秀行さんから伝統技術を受け継ぎ、四代目として、その保存・向上に意欲的に取り組んでおり、各種の和太鼓の製作技術の全工程を習得しています。

連絡先：0478 (52) 3991 **見学のみの可能**

**神祇器 Religious/ Festive Ornaments** 指定番号 49 (昭和60年度指定)

ほんのう え ま  
**本納絵馬** HONNŌ-EMA  
やべ ひろし  
矢部 宏 (茂原市)



絵馬は何かを祈願するとき、祈願した願いが叶ったときに寺社に奉納するものです。  
矢部さんは高祖父の代から絵馬を手掛け、信仰奉納用のほか、室内装飾用の絵馬も製作しています。本納絵馬は日本画の技術を取り入れ、絵画性の高いものである点に特色があります。

連絡先：0475 (34) 3108 **製作体験あり**

**その他工芸品 Other Crafts** 指定番号 184 (平成29年度指定)

うち あ はなび  
**打上げ花火** UCHIAGE-HANABI  
たかぎ いさむ  
高城 勇 (柏市)



高城さんは、明治時代後期から花火作りを続ける高城家の4代目で、地元の手賀沼花火大会を第1回目から手掛けています。  
初代である祖父のもとで習得した火薬の配合や、檜の実や穀殻を使った割り薬作りなど原材料・技法を守りながら、毎年競技大会に出品し、花火の質や演出にもこだわっています。

連絡先：04 (7191) 3376

**その他工芸品 Other Crafts** 指定番号 33 (昭和59年度指定)

こ いと はなび  
**小糸の煙火** KOITO-NO-HANABI  
ふくやま じろう  
福山 次郎 (君津市)



上総地方では、明治時代中期から各村で遊び道楽として手製花火の打ち上げが盛んでした。  
福山さんは、明治11年に先代の藤次郎さんが秘伝として記した「形もの」の花火作りを受け継ぐ五代目です。普通の花火と違って夜間に図形や文字を美しく描く花火を得意としています。

連絡先：0439 (55) 7033

**和楽器 Japanese Musical Instruments** 指定番号 148 (平成13年度指定)

なん そうしゃくはち  
**南総尺八** NANSŌ-SHAKUHACHI  
ふくお つよし  
福尾 毅 (市原市)



南総尺八は、真竹を原材料として、中継ぎ部分を山桜の皮で巻き付けるなど、竹の優美さを生かして製作されます。  
福尾さんは、平成7年に県指定を受けた加藤萬童氏の下で修業を重ね、三代目としてその技術・技法を受け継いでおり、古来からの伝統を絶やすことのないよう普及に努めています。号は「福尾毅童」。

連絡先：0436 (22) 5141

**和楽器 Japanese Musical Instruments** 指定番号 194 (令和2年度指定)

おおもりしゃくはち  
**大森尺八** OOMORI-SHAKUHACHI  
すずき ひろあき  
鈴木 広昭 (勝浦市)



大森尺八は、地元の真竹を原材料として、中継ぎに山桜の樹皮を巻き付けたり、螺鈿を施したりして全体の調和を重視しています。  
鈴木さんは、師匠の名を受け継ぎ、二代目「東照」として地元で尺八の製作と普及に尽力しており、良い音と美しい管の追求を神髄として取り組んでいます。

連絡先：0470 (76) 2659

**神祇器 Religious/ Festive Ornaments** 指定番号 107 (平成5年度指定)

え ど み こし  
**江戸神輿** EDO-MIKOSHI  
しいな まさお  
椎名 正夫 (我孫子市)



江戸神輿は、胴を嵩上げて、周りを回廊と勾欄と階で装飾した造りの「勾欄造り」が特徴の神輿であり、吟味された木材が使用されています。  
椎名さんは江戸時代の古い神輿の修復にも携わっており、いつの時代に、誰が見ても良いと思う神輿づくりに取り組んでいます。

連絡先：04 (7182) 0333 **見学のみの可能**

**その他工芸品 Other Crafts** 指定番号 165 (平成19年度指定)

うち あ はなび  
**打上げ花火** UCHIAGE-HANABI  
ふくやま いちろう  
福山 一郎 (君津市)



上総地方では、明治時代中期から各村で遊び道楽として手製花火の打ち上げが盛んでした。  
福山さんは、父の次郎さんの下で修業を重ね、江戸時代末期から花火作りを続ける福山家の六代目です。また、「形もの」の技術革新にも余念なく、伝統の中にも新しい風を吹き込みながら、花火作りを続けています。

連絡先：0439 (55) 7033

**その他工芸品 Other Crafts** 指定番号 101 (平成3年度指定)

え ど  
**江戸つまみかんざし** EDO-TSUMAMI-KANZASHI  
ほづみ みのる  
穂積 実 (市川市)



つまみかんざしは、江戸時代初期、上方に起こり、小さく刻まれた色鮮やかな羽二重をつまんで作ることに由来します。  
穂積さんは、つまみかんざしの名人である故石田竹次氏に師事し、伝統技術・技法を受け継ぎ、独立しました。以来、かんざしを通して女性を演出し続け、流行にも絶えず気を配っています。

連絡先：047 (337) 4506

**その他工芸品 Other Crafts** 指定番号 185 (平成29年度指定)

え ど  
**江戸つまみかんざし** EDO-TSUMAMI-KANZASHI  
ほづみ ひろし  
穂積 裕 (市川市)



つまみかんざしは、江戸時代初期、上方に起こり、小さく刻まれた色鮮やかな羽二重をつまんで作ることに由来します。  
穂積さんは、父の実さんから伝統技術・技法を受け継ぐとともに、現代感覚を盛り込んだブローチやフォトフレームの製作など、つまみかんざしの技法のアレンジにも広く取り組んでいます。

連絡先：047 (337) 4506



その他工芸品 Other Crafts 指定番号 190 (令和元年度指定)

えど 江戸つまみかんざし EDO-TSUMAMI-KANZASHI 穂積 裕子 (市川市)



つまみかんざしは、江戸時代初期、上方に起こり、小さく刻まれた色鮮やかな羽二重をつまんで作ることに由来します。

穂積さんは、父の実さんから伝統技術・技法を受け継ぐとともに、女性の感性を取り入れたチョーカーやバッグチャーム等の製作にも取り組み、つまみかんざしの魅力の普及に努めています。

連絡先：090 (8852) 3946

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 186 (平成29年度指定)

えど 江戸つまみかんざし EDO-TSUMAMI-KANZASHI 藤井 彩野 (松戸市)



つまみかんざしは、髪飾りの伝統的なものとして、その技法が江戸時代より伝えられてきました。

藤井さんは、ワークショップを開催するほか、現代的なデザインを取り入れたものを製作し、つまみかんざしの普及や次世代への伝承にも、積極的に取り組んでいます。

連絡先：090 (9142) 1227

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 195 (令和2年度指定)

おおたき やき 大多喜焼 OOTAKI-YAKI 井口 峰幸 (大多喜町)



明治20年より、大多喜の鈴木菊太郎氏は地元産の陶土を原料とし、手びねりや蹴ろくろを用いた技法を用いて、粗く独特な質感の焼き物を製作していました。

この焼き物は鈴木氏以降一時途絶えていましたが、瀬戸・常滑で陶芸を学んだ井口さんは、鈴木氏の技術を研究・継承し、復活させました。井口さんは地元の原料を釉薬にも使い、これを"大多喜焼"として、その製作に励んでいます。

連絡先：0470 (84) 0664

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 68 (昭和61年度指定)

とうせいひん 籐製品 TŌ-SEIHIN 加瀬 文夫 (銚子市)



籐製品は、籐を使用して製作する家具や日用雑貨等です。

加瀬さんは、手巻、手編という技術を用いた椅子やテーブルの製作を得意とし、伝統的な製作技術の上に現代的な新しいデザインの研究にも意欲的であり、全国的な展示会にも出品し、好評を得ています。

連絡先：0479 (22) 5477

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 188 (平成30年度指定)

とうせいひん 籐製品 TŌ-SEIHIN 加瀬 稔 (銚子市)



籐の特徴である曲線と強度、そして軽さを最大限に生かし製作したのが籐製品です。

加瀬さんは、昭和61年に県指定を受けた父の文夫さんから受け継いだ技術を大事にしながら、現代の服装や家屋に合った籐製品をお客様目線で製作しています。手編の技術は展示会などでも好評を得ています。

連絡先：0479 (22) 5477

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 147 (平成13年度指定)

だま とんぼ玉 TONBO-DAMA 森谷 糸 (千葉市)



とんぼ玉は、穴の開いた色ガラスの玉にいろいろな模様を付けたもので、古代文明から作り続けられており、現代でもペンダントや根付などの装飾品に使われています。

森谷さんは、バーナーワークの中の一つとして「とんぼ玉」を作り始め、着物の模様や日本の色を基調とした玉を作りたいとのことでした。

連絡先：043 (237) 7799

製作体験あり

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 177 (平成24年度指定)

さわら 佐原ラフィア SAWARA-RAFFIA 石井 登貴子 (香取市)



ラフィアとは、マダガスカル原産のラフィア椰子の葉の部分を加工した天然素材のことです。バッグやバスケット、帽子等の素材として使われています。

石井さんは、ラフィア工芸の第一人者であった石井かね氏の下で、伝統技術を継承してきました。使い込むほどに柔らかさと艶を増すということで、好評を得ています。

連絡先：0478 (54) 5641

製作体験あり

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 35 (昭和59年度指定)

しもうさそでがき 下総袖垣 SHIMŌSA-SODEGAKI 越川 勝之 (多古町)



袖垣は、日本家屋で、玄関の脇や裏木戸の周囲などに目隠しを目的とした垣根であり、和服の袖に似ているところからこの名称がつけられました。

越川さんは、大阪で修業を積み、安土・桃山時代の形を基本とした伝統的な袖垣作りを守り続けています。これから納得のいく袖垣を作っていきたいとのことでした。

連絡先：0479 (75) 1335

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 166 (平成20年度指定)

じょうばくら 乗馬鞍 JŌBA-KURA 池上 豊 (富里市)



西洋乗馬鞍は、明治以降に製造が始まり、原材料は牛革を使い、二本針縫いなどにより製作されます。富里市は、競走馬のふるさととして有名なことから、乗馬鞍は、この地に相応しい地域の歴史とともに歩む工芸品です。

池上さんは、先代から技術・技法を受け継ぎ、明治から変わらない製法で製作しています。

連絡先：0476 (93) 3127

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 193 (令和2年度指定)

だま とんぼ玉 TONBO-DAMA 森谷 深冬 (千葉市)



森谷さんは、とんぼ玉の伝統性に感銘を受け、平成13年に県指定を受けた母の糸さんから伝統技術・技法を継承してきました。

とんぼ玉は、様々な色や形をガラスの玉で表現でき、新たなデザインにも積極的に取り組みながら、身近な自然を写した日本人の感性を表現した玉の製作に励んでいます。

連絡先：043 (237) 7799

製作体験あり

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 171 (平成22年度指定)

だま とんぼ玉 TONBO-DAMA 駒野 幸子 (千葉市)



駒野さんは、平成13年にとんぼ玉で伝統的工芸品の県指定を受けた森谷糸氏に師事し、繊細な技法を習得しました。

受け継いだ技法をもとに、戦国玉や法隆寺玉といった伝統的なとんぼ玉の製作に力を注ぐ一方で、新たな技法やデザインにも積極的に取り組み、より魅力的な作風を目指しています。

連絡先：080 (3534) 9240

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 34 (昭和59年度指定)

はけ 刷毛 HAKE 田中 重己 (習志野市)



刷毛は、建設業から食品業までその利用の途は広く、原料は動物の毛であり、穴熊から豚の毛まで多種にわたりますが、国内調達に困難となってきています。

田中さんは、明治40年から続く刷毛作りの「小林の刷毛」の三代目として、伝統的手法で刷毛作りを行っています。

連絡先：047 (472) 3431

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 121 (平成8年度指定)

そうげぼり 象牙彫 ZŌGE-BORI 荒川 啓 (松戸市)



象牙彫は、江戸時代、江戸文化爛熟期に隆盛を誇った日本独特の装飾品でした。

荒川さんは、祖父の代から三代にわたる象牙職人で、旧来からの根付などの他に、象牙の素材を活かした茶器や装身具などのオリジナル性に富むものも製作し、新たな作品にも取り組んでいます。

連絡先：047 (362) 7124

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 115 (平成7年度指定)

とうかく 籐家具 TŌ-KAGU 古島 一良 (千葉市)



丈夫で軽量・柔軟な籐材料を使用して国産籐家具を製作しています。

古島さんは父定男さん(現代の名工)のもと修行し、現在「千葉県の卓越技能者」として表彰を受け技術を継承しています。

素材を選ぶ審美眼と、高度な製作技術を生かしたオリジナルデザイン家具やインテリア小物など、時代を超えて広く愛され好評を得ています。

連絡先：043 (241) 3031

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 54 (昭和60年度指定)

とうせいひん 籐製品 TŌ-SEIHIN 堀江 深一 (銚子市)



籐製品は、籐を使用して製作する家具や日用雑貨等です。籐職人の数は全国でも数えるほどしかなくなりつつあります。

堀江さんは、素材から製品まで一貫した手作り、籐椅子をはじめ、籐の良さを生かした各種の家具、小物を製造しています。製品の良し悪しを決める技のポイントは、巻き加工と張りを実行することです。

連絡先：0479 (23) 0806

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 173 (平成23年度指定)

はけ 刷毛 HAKE 田中 宏平 (習志野市)



田中さんは、昭和59年に県指定を受けた父の重己さん(現代の名工)の下で修業を重ね、家伝の伝統技法を習得しました。表装技術に使われる刷毛は、糊の濃度や紙の強度に応じて、むら、たまり、すじ等を生じさせず、手早く均一に塗布できることが求められるので、入念かつ繊細な熟練の技が必要となります。

連絡先：047 (472) 3431

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 106 (平成5年度指定)

ざいく ビーズ細工 BEADS-ZAIKU 仙田 秀一 (柏市)



ビーズ細工とは、古くは宝石に属するものとして貴重に扱われていたビーズを使用し、日本刺繍の技法を駆使して、直径1.4~2ミリメートルのビーズを2粒ずつ丁寧に刺繍したものです。

仙田さんは、昭和27年から父の鎮男さん(現代の名工)の下で技術を学び、以来、この道一筋です。

連絡先：04 (7143) 4181

その他工芸品 Other Crafts 指定番号 187 (平成30年度指定)

ざいく ビーズ細工 BEADS-ZAIKU 仙田 和雅 (柏市)



ビーズ細工とは、古くは宝石に属するものとして貴重に扱われていたビーズを使用し、日本刺繍の技法を駆使して、直径1.4~2ミリメートルのビーズを2粒ずつ丁寧に刺繍したものです。

仙田さんは平成2年から父の秀一さんの下で技術を学び、その伝承と発展に意欲的に取り組んでいます。

連絡先：04 (7143) 4181